



金髪 スク水JKを独り占め！



あれ、着てきてる？



――8月

夏休みも中盤に差し掛かったころ

時刻は正午近く。さっきまでぐっすり眠っていた。

遅寝遅起きという夏休みの醍醐味を楽しみつつも、今日は友人といっしょに、学校で夏休みの課題をやる約束をしている。

『ピンポン』

インターホンが鳴る。時間ぴったりで。

僕は玄関へと向かい、炎天下の中、

わざわざ迎えに来てくれた『彼女』を招き入れた。

おはよう、今日も暑いね。



彼女は月島 礼（ツキシマ レイ）

夏休みが始まったばかりの頃、  
とある出来事がきっかけで仲良くなった。

『告白』はしていないが、事実上  
付き合っていると言って良い状態だ。

お茶出すよ

えっ、入っていいの？

ああ。今みんな外出しているから大丈夫

僕は月島を寝室に招き、冷たい麦茶でもてなした。



家族が外出しているのをいいことに、僕たちはしばらく、冷房の効いた部屋の中でたわいもない会話を続けた。

狭い部屋の中で男女が二人。  
当然ながら、『そういう雰囲気』になっていく。  
僕は本題を切り出した。



あれ、着てきてる？

うん。…もう見たい？

僕が首を縦に振ると、  
月島は恥ずかしそうに制服を脱ぎ始めた。

あらわになったのは学校指定のスクール水着。  
じつはお願いして、下着がわりに着て来て  
もらっていたのだ。



そもそも今日、一緒に学校へ行く約束をしたのは  
他でもない、スクール水着姿の彼女と、夏休みの  
学校でエッチするためだ。

——課題に取り組むというのは  
言わば『サブクエスト』にすぎない。

学校行く前に…する？

先に誘ったのは彼女のほうだった。

早る気持ちを抑えきれず、

僕は月島の『言う通り』にした。





めっちゃ大きくなってるね  
熱くて硬い...

月島の手もあったかいよ

ふふ

ギュー

溢れ出した体液を使って、丁寧にマッサージを続ける月島。好奇心に満ちた無邪気な表情で男の性器を弄んでくる。

ネチッ

又チュ

先っぽにキスしてほしい…

キス?…ふーん、いいよ





あああ…気持ちいい…もつと吸って…

舌の感触…くすぐったくて癖になりそう

二人でいるときは名前呼びにしようよ？

そうだね。礼…レイ……大好きだ

…もつとメロメロになって





ああ、礼…口の中めっちゃ気持ちい…  
あったかくて、すごく優しい…

とろけちゃいそう…

もう少し強めにしめつけて…  
ゆっくり出し入れして…

クチュ

クチュ

こうやってみるスク水の肩紐とか肩とか  
すごいイイね…。見ててすごいドキドキするよ

くちゅ

くちゅ

くちゅ♡

チュ♡

ネチッ♡

姿見に写った彼女の背中をじつくりと視姦



ちゅ  
ぬちゅ  
くちゅ



揺れる髪、夏の陽光を反射して輝くスクール水着…。  
濃い紺色と白い肌のコントラストが美しい。



この水着の上に制服来て、  
街を歩いてきたと思うと…すごい興奮する…。

礼の後ろ姿、鏡で見えてるよ。  
お尻がちよつとはみ出しちゃってる…

お尻好き？

うん…横になってお尻こっちに持ってきて…  
礼のスク水触らせて…

スケベ〜

君だって好きでしょ

うん。好きだよ

くちゅ

くちゅ

くちゅ♡



よく見える？

ああ。股もお尻も丸見えだよ

…この体勢めっちゃ恥ずかしい…

じゃあ礼の恥ずかしいところ…いっぱい触らせて



はう…

ん

ヌク

クク

汗ばんだスク水尻を揉みながら、  
礼の性器を愛撫する。

甘い声を漏らしながら彼女は赤面し、  
水着の股布にシミを広げていく。

礼の性器の『硬い部分』にシミが広がるよう  
指を動かし、そこを徹底的に責め上げる。

クリのシコシコ気持ちいい？

うん…気持ちい…  
シコシコもつといっぱいして…

イクところ見せて  
礼の恥ずかしいイキ顔

うん……イキそう…恥ずかしい格好でイク…  
…ごめん……もう…あっ…ああ…

グチュ

グチュ

グチュ





イキ顔見ちやつたよ…

ビクッ

ビクッ

キッ

キッ

……はあ……はあ……君もイカせるから

復讐とばかりに、猛烈な勢いでフェラを始める礼。  
わざといやらしいジューボ音を出しながら徹底的に  
男性器を刺激してくる。

激しい！…礼！…それイク！  
それされたらイク…！耐えれない…！

礼！イク！イっちゃ…

ズン  
ジュン  
グジュン



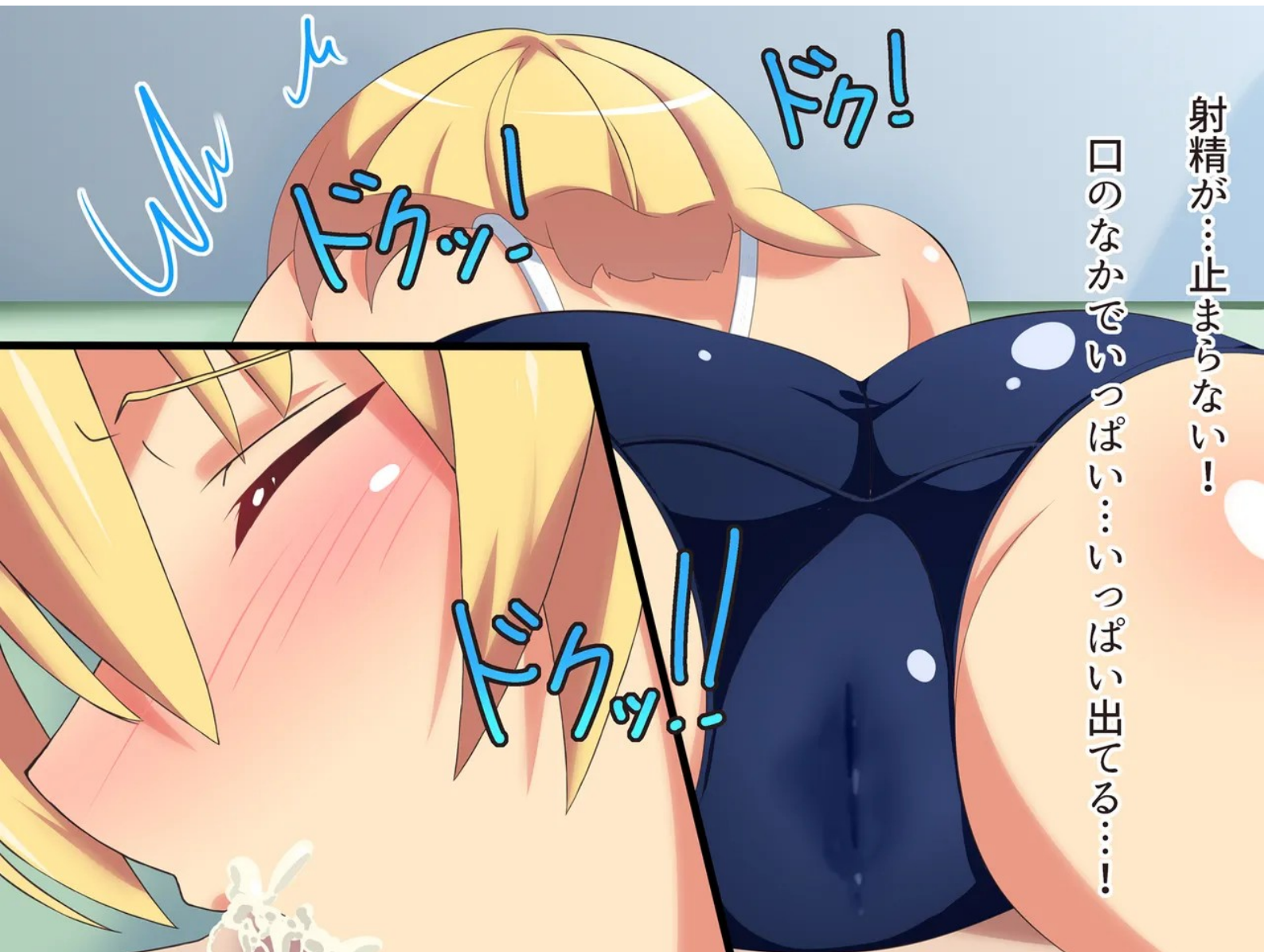
射精が…止まらない！

口のなかでいっぱい…いっぱい出てる…！

ドク！

ドクッ！

ドクッ！！



射精が終わった僕を礼がじつとりと見つめてくる。

はぁ...

はぁ...

礼...好きだ...。君のこと...本当に好きだ

私も好きだよ



ことが終わった後、僕たちはしばらくベッドの上で肩を寄せ合った。

そうだね。そろそろ行こうか  
いつもの部室の倉庫に…

続きは学校でする？

滅多に人のこない、絶好の場所があるのだ。



着いた頃には…スク水…もつと汗吸って  
良い感じになってると思う

好きなんだねやつぱり、スクール水着  
私もこれ着るとドキドキするようになっちゃったよ

もう一着、水着買っちゃおうかな  
エッチ用の水着として

まじで？じゃあ競泳のかっこいいやつとかどう？

競泳水着か…いいのあるかな？



これからのことを考えてニヤニヤと微笑む礼。  
僕たちはすっかり『スク水プレイ』の  
虜になっているのだ。

それじゃ、学校行こっか

— 終 —





















































